

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第46期）

岡崎市民病院事務局総務課 岩月 佐千子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

令和6年1月29日、北海道から鹿児島まで全国各地から76名の研修生が立川の地に集い、3月9日までの約1か月間、かけがえない時間をともに過ごした。あれから4か月、研修での学びを活かし、業務に邁進する日々を過ごしている。今回、自治大での経験をお伝えする機会をいただいたので、素晴らしい仲間と出会い、支え合い、成長することができたあの目まぐるしい日々を、改めて振り返りたい。

2 入校を迎えるまで

第1部・第2部特別課程は、「地方自治制度」「地方公務員制度」「地方税財政制度」などの法制課目についてはeラーニングを受講することにより、短い研修期間で政策立案能力・行政経営能力を習得することができるというのが大きな特徴である。実は、数年前から第1部課程の研修受講を打診されていたのだが、長期間子どもたちと離れて過ごすことが受講への最大のハードルとなっていた。今回、子どもたちの進学や自身の部署異動など研修受講に踏み切る環境が整ったため、希望を受け入れてもらい、岡崎市として初めて、第1部・第2部特別課程に参加することとなった。

eラーニングは、自宅で効率よく知識を習得できる学習方法だが、日々の業務や家庭生活と並行して、計67時間というボリュームをこなすのは想像以上にハードだった。特に、入校直前は荷物の準備などで時間に

追われるため、これから受講されるかたには、早くから計画的に取り組むことをお勧めする。余談となるが、どうにかこうにかeラーニングの履修を終えて研修に臨んだ私たちには、初日から不思議な連帯感が生まれていた。

また、1か月間不在となる職場と家庭における準備を整える必要もあった。私の場合、幸か不幸か自治大でもテレワークを活用できる環境にあったことと、快く研修に送り出してくれた上司、頼もしい係員たちがしっかりと支えてくれたおかげで、安心して研修に向かうことができた。家庭では、半年ほど前から次女のお弁当づくりを始めとする家事の分担などの話し合いを重ね、1か月を乗り切る戦略を練った上で入校の日を迎えた。

3 自治大での学習内容

座学、グループ演習、レポート作成を通し、幹部として必要な政策形成能力を高めるための公共政策課目、管理職としてのマネジメント能力養成等に資する行政経営課目などを短期間に集中して学ぶことができた。特に、地方公共団体を巡る最新の政策課題などについて、幅広い分野の第一人者から直接話を聞くことができたことは、非常に有意義だった。また、経済学に関する講義が多く、自身が無意識のうちに、大学で専攻した経済学・経営学の知識を用いて考え、行動していることに気付いた。今回改めて経済学に触れる機会を得たことで、20年以上前の学びが自身の思考の基礎となってキャリア形成を支えてくれていることを知り、嬉しく思った。

最も労力を費やしたのが特定政策課題演習であり、提示されたテーマの中から自身が最も興味がある「女性活躍推進」を選び、レポートを作成した。大学の卒業論文以来のレポートを完成させるまで、いかに8,000字を超えるか、どのような構成にすれば分かりやすいのか、と頭を悩ませ、夜中までパソコンに向かう日々が続いた。苦しかったが、仲間と励まし合いながら、じつくりと課題に向き合い、完成した時の達成感はひとしおだった。



▲雪化粧の自治大校

4 研修を終えて

尊敬する先輩方が自治大を卒業しており、自治大のことは知っていたが、自分には縁がないものだと思い込んでいた。それでも、このようなチャンスをつかむことができたのは、何度も粘り強く声を掛けてくれた人事課時代の上司と、強く背中を押してくれた夫のおかげであり、感謝に堪えない。子どもたちは1か月間、家事をこなし、家族と離れて過ごす母に毎日メールを送ってくれた。振り返ると、成長や挑戦の機会を遠ざけていたのは、他ならぬ自分自身の様々なバイアスであったと思う。もし当時の私と同じように自治大での研修受講を迷っているかたがいたら、思い切って挑戦してもらいたい。

そして、何よりも全国各地から集まった仲間とまちづくりや部下育成について本音で語り合い、励んだ日々は、この紙面では語り尽くすことができないほど素晴らしいものだった。特に、私が過ごした麗澤寮6階フロアは、個性豊かなメンバーが揃っていて、談話室はいつも笑いとおしきさであふれていた。これまで一度も地元から出て暮らしたことがなかった自分にとって、家族以外と過ごすことは初めての経験だったが、とても1か月間とは思えない、深く濃厚な日々だった。今でも、同じ空の下、全国各地で仲間たちが奮闘している姿を思うと、勇気づけられる。

自治大での全ての経験が自身のモチベーション向上につながり、これからの人生においてかけがえのない宝となった。今後、この貴重な学びを組織や後輩たちにしっかりと還元できるよう、更なる研鑽に励み、ともに過ごした仲間たちと胸を張って会える自分でありたい。



▲麗澤寮6階フロアメンバー